

「心田を耕す」

心を田んぼになぞらえた、心田という言葉がある。私たちの心は時に、草ぼうぼうで石がゴロゴロ転がった荒れ放題の田んぼになってしまう。荒れてしまった心田はまた、一から土地を掘り起こし、鍛錬するしかない。自分の心は自分で耕すほかないのである。よく耕された、豊かな土地に蒔かれた種子のみが、多くの実を結ぶ。

(いのちの言葉 日野原 重明 より)

11月8日は立冬で、暦の上ではこの日から冬になります。今年、長雨から気持ちの良い秋晴れになったかと思うと、急に冷え込む日が増えてきました。七十二候では「山茶始開(つばきはじめてひらく)」という時季に入ります。この山茶花は困難に打ち勝つという花言葉を持ち、寒い季節に色鮮やかに力強く咲き誇る姿を楽しませてくれます。

子どもたちは毎年、自然の恵みと神さまに感謝をし、収穫祭の中で「たねくとよいはたけ」の紙芝居を見ます。この中で固い道路やゴロゴロとした乾いた石地、トゲトゲした茨の中、よく耕された畑に種が落ちます。鳥が来て種を食べてしまったり、根が張れず枯れてしまったり、茨に塞がれ実がつかなくなったりします。この土地は、私たちの心の在り方を表しているのだと思います。どんなに良い言葉を聴いたり優しくしてもらっても受け入れ側の心の持ち方で根を張ることも、葉を付けることも花を咲かせることもないのです。心には形がなく目に見えないためおろそかにしてしまうこともあります。腹を立てたり一喜一憂したり、傷つき荒れてしまうこともあります。そんな時は、立ち止まりゆっくりと見つめ直す必要があります。時には不要な物を捨て、当たり前だと思っているものに感謝し素直な心や思いやりの気持ちを持つことが大切になります。子どもたちが豊かな実を結ぶことができるよう、愛されている大切な自分であることを感じられるよう共に歩んでまいりたいと思います。

クレイシュ保育園 園長 小清水 幸子
職員一同

11月聖句
わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛しなさい。

ヨハネによる福音書15章12節

11月主題
「ありがとう」0歳

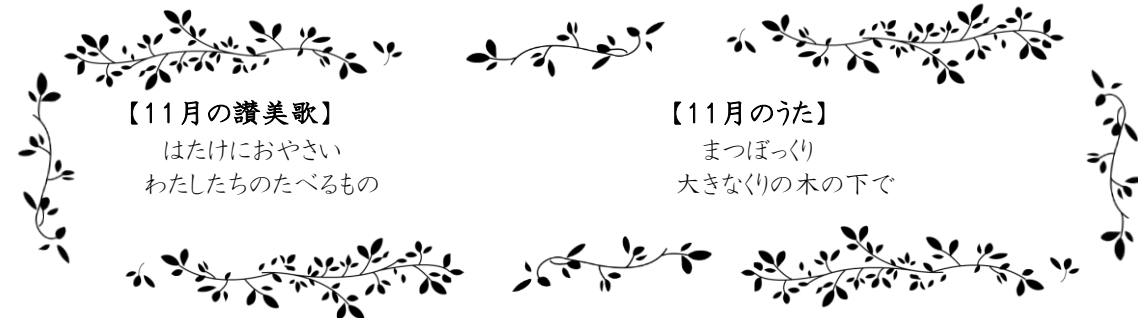
- ・保育者の「ありがとう」という祈りに、うれしい気持ちを重ねる
- ・様々なことに興味をもち動き出す。
- ・保育者や友だちと園の生活を楽しむ

1・2歳

- ・神さまがくださったたくさんの恵みに感謝する
- ・生活や遊びの中で、自分の気持ちや発見を表現する。
- ・自分でやりたいという気持ちと、うまくできずにじれる気持ちを保育者に受け止めてもらう。

～子どもたちの姿～

肌に触れる風もだんだんと冷たくなり、晩秋の気配が感じられるようになりました。先日行われたフェスティバルではたくさんのご協力を頂きありがとうございました。いつもとは違う環境に泣いてしまう子もいましたが日々の子どもたちの活動を取り入れることで、一人ひとりの発達や年齢毎の成長を感じて頂けたと思います。また、他の年齢が行った遊びにも興味を示しボールを蹴ろうと挑戦したり「いい音がするよ」と竹に小枝を打ち付けたり、コースを自分達で変え連続ジャンプをするなどさらに遊びを自分達で工夫しています。生活面では、自分でやりたいという気持ちが多く0歳児も朝の支度で袋からコップを出したり、1,2歳児は着脱や服を畳んだり、袋にしまうなども意欲的に行っています。出来た嬉しさだけでなく、出来ない悔しさも受け止め、次なる挑戦に向かう気持ちが育まれるよう丁寧に関わっていきたいと思います。



	月	火	水	木	金	土	日	
11月の予定表							1	
	2	3 文化の日	4	5	6 身体測定	7	8	
	9	10 収穫感謝祭	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20 避難訓練	21	22	
	23 勤労感謝の日	24 健康診断	25 誕生会	26	27 クレイシュ通信	28	29	
	30							
	<small>◎持ち物の名前が薄くなってしまっている持ので、確認をよろしくお願いいたします。 ◎午睡時に薄手の綿毛布を使用しますので、ご家庭で用意お持ち頂きますようお願いいたします。</small>							